

# 市議会への提案

令和6年6月17日

富野小学校6年生一同

# 廃棄される野菜

6年1組 木下、高崎、平野、山崎

## 1. 提案のきっかけ

### (1) 私たちの経験と調べて分かったこと

私たち富野小学校では、毎日の給食で食べ残しがどれくらい出ているかをグラフで貼り出し、食べ残しの目標を決めています。それを見ると食べ残しが毎回、目標より量が多いです。

そこで給食だけでなく、家での食べ残しはどうか興味をもちました。それを調べてみると、北九州市の家庭からは年間約2,6万トンの食品ロスが発生していることや、日本では2020年の秋冬野菜の収穫量290万トンのうち、58万トンは規格外野菜として廃棄されることがわかりました。このように、学校でも家庭でも多くの食品ロスが発生しています。

### (2) 解決したい課題

上記のことを調べてみて、食品ロスと規格外野菜が想像以上に多くて、とてももったいないと思いました。そこで、なるべく食品ロスを減らし、みんなに「もったいない」という気持ちをもってもらえたらと思い、この課題を解決する方法を提案します。

## 2. 提案

### ○提案(1)

食品の食品ロスを今より減らすために規格外野菜をたくさんのスーパーで値引きをして売ってほしいです。例えばスーパーで普通の野菜コーナーの横に規格外野菜だけのコーナーを作ってほしいです。そのコーナーには規格外野菜だけを集めて普通の値段よりすごく安く、人に目がつく場所にあります。家の人に聞いてみても「形が多少悪くても安い方を買う」ということを言っていました。なので、このような規格外野菜がすぐに手に入る場所が身近にあるといいと思います。

### ○提案2

レストランで食べ残した物をドギーバッグで持ち帰ることのできる店舗を増やしてほしいです。まだあまり知られていないドギーバッグですが、これから広がってくると、お店での持ち帰りがしやすくなると思います。例えばいろいろな大きさ、深さなど、バリエーションが豊富な容器を置いておくと、入れる食品に合わせた選択ができると思います。それによって食品ロスを減らすことにつながると考えます。

## 3. まとめ

①食べ残して食べられるけど捨てられる食べ物はドギーバッグなどで持ち帰るようにする。②規格外野菜を値引きして売る。このようなことをすることで今現在とても多い食品ロスや規格外野菜を減らすことにつながると考えます。こうして、見かけることが増えると、自然と食品ロスに対して関心が向くと思います。なので、私たちは以上のことを提案します。

# 地域のごみ問題

6年1組 木森、島村、空閑、和田

## 1. 提案のきっかけ

私たち富野小学校の地域にはゴミがすぐ落ちています。例えば学校に一番近い、大谷公園には砂場の中や遊具の近くにタバコやお菓子のごみがたくさん落ちています。遊ぶときなどにもゴミがあつて袋などはすべてこけたりするときもあります。他に朝いつも、校長先生が公園のごみを拾っていても、次の日公園に行くとたくさんのごみが落ちていることが分かります。もちろん、私たち子どももゴミを捨てないよう、意識していきます。しかし、明らかに子どものものではないゴミがよく落ちています。ですので、私たちが住む地域がいつもキレイになるよう、ゴミを減らす取り組みについて提案します。

## 2. 提案

### ○提案(1)

金属製の箱型のごみ箱を設置してほしいです。現在は写真のようにごみを荒らされています。私たちの近所の公園も荒らされています。朝になると、道路全体に散らばって、車も避けるなどして、通りづらいです。しかし金属製のごみ箱にすると、カラスがごみをつつくことも無くなります。カラスがどこかにごみを持っていくこともなくなり、とてもきれいになると思います。

### ○提案(2)

私たちの公園には最近ゴミが多く落ちています。ですので、公園に防犯カメラを設置していただくと幸いです。そして、防犯カメラを設置することによって、ごみを捨てる人が減るなどでなく、犯罪も減るかもしれません。その下に防犯カメラ作動中と書いた看板も設置していただけるとなお幸いです。防犯カメラに気づかないと意味がないので看板も設置していただくと嬉しいです。このように、防犯カメラを設置し、「防犯カメラ起動中」というポスターを貼ることによっていつもゴミを捨てている人は、カメラに証拠を収められていると感じゴミのポイ捨てが少なくなると思います。

## 3. まとめ

今回、自分たちの地域のごみ問題を調べていると、ゴミに困っている様子が分かりました。そして、そのゴミを陰ながら掃除をしてくれている地域の人達も知りました。そうした人達の活動に頼るのではなく、地域みんなでキレイにしたいと考えるようになりました。だからこそ、人の意識だけでなく、ゴミが散乱しない環境も整えると、もっと地域がキレイになると思います。ぜひお願いします！

# 授業時間の改善

6年1組 飯田、大塚、宮本、吉村

## 1. 提案のきっかけ

私達は、授業時間の改善を提案します。今、富野小学校では週に29時間の授業があります。しかし、これでは、週の授業数が多いと思っています。その理由は二つあります 理由一つ目は水曜日しか5時間の日がないからです 理由二つ目は習い事がある人は友達と遊ぶ時間が取れないということがあったからです。実際に、習い事をやっている人がクラスにいてその人は毎回走って帰って走ってスポーツクラブに行っているからです。登下校の坂道もあり、とてもきついらしいです。これが授業時間改善の提案のきっかけです。

## 2. 提案

### ○提案(1)

授業時間を減らすことを提案します。具体的にはこのような感じです。

月…5 時間

火…6 時間

水…5 時間

木…6 時間

金…6 時間

なぜこのような時間割にしたかという週のはじめは元気が出なく6時間だときついと思うこともあったからです。全部 5 時間にしたいと思うけどそうすると土曜日に給食を食べる前に帰るようにしないといけないけど部活で朝練がある人はまず学校と部活が重なっているから困ってしまうと思ったからです。

このように授業時間を減らすと自分の時間が増えます。習い事や勉強、遊ぶことなど、それぞれの子どもが自由に時間を使えるようになります。

他にも、毎月1回午前中だけの授業をするなど、改善する工夫はできると思います。

## 3. まとめ

今、大人のみなさんも授業時間が長いと思ったことはありませんか??もちろん授業は大切です。しかし、それと同じくらい、子どもたちの自由な時間も大切と考えます。また、富野小学校の先生方にもアンケートをしました。その結果 8 人中 5 人が賛成しています。子どもたちの時間の確保だけでなく、先生方がゆとりをもって授業を行うためにも、授業時間の改善はよいと思います。今の、ギチギチの授業時間を改善することは、子どもにとっても大人にとってもよいのではないのでしょうか。

# 給食を運ぶことを簡単に

6年1組 清水、中元、星子、松浦

## 1. 提案のきっかけ

給食を運ぶときに、重くて運ぶのが遅くなったり、給食をつぐときに、低学年が給食をこぼしてしまったりした時があったのではないだろうか。私たちのグループでは給食をこぼしてしまったことや、運ぶのが遅くなって昼休みがなくなった事はクラスのみんなが経験していました。なので、そうしたことが少なくなるよう、給食を運びやすくなればいいと考えました。

クラスにアンケートをしてみると、17人中 16人が賛成していました。その理由は、昼休みの時間が長くなるや、野菜の無駄がなくなるや、給食関係なく体が不自由な人でも学校に通えると言っていました。なので、私たちは給食を楽に運べるようにする事を提案します！！

## 2. 提案

### ○提案(1)

一つ目の提案として、エレベーターを設置することを提案します。エレベーターがある中学校も多数あるから使い方を気を付けて小学校でもエレベーターを付ける取り組みをしてほしいです。エレベーターがあるとすぐに運べるし重くてこぼしてしまうことも少なくなるからです。

富野小学校の階段は3個あってそのうちの給食室の近くの1個の階段は普段、給食を運ぶときにしか使いません。なので、その階段の場所をエレベーターにしたらいと思っています。二つは欲張りすぎなので一つでいいです。

### ○提案(2)

二つ目の提案として、給食の道具の改善です。まず、ごはんを一人一人ではなくて、大きなおひつに入れることです。大きなおひつにしたらごはんを運ぶときにガチャガチャ言うことなく運びやすいし、熱くもないから楽になります。おひつに入れたほうがいいと思います。

さらに給食用カートですべての料理の入れ物を置いてみんなで押していくのがいいと思います。そうすると、手間がかからなくなるし、やけどなどをしなくなるし、給食を落とさないで済みます。実際に、福岡県内の小学校では、エレベーターをつけたり給食用カートを使ったりおひつを使っているところもあります。なので、富野小学校にも給食の道具を充実させてほしいです。

## 3. まとめ

このように、給食を自動化していくと、給食が楽になります。給食が楽になると、しっかり給食時間をとることができて食べるのが早くなって休み時間が増えます。残菜も少なくなります。いいことづくしです。なので、エレベーターの設置や給食で使う道具の充実などを考えてくれないでしょうか。

# ICT 学習の推進

6年1組 案納、池田、内貴、丹村

## 1. 提案のきっかけ

今、パソコンを使ってする仕事が多いです。先生たちも、以前より、パソコンを使って仕事をする人が多くなったと言っていました。なので、これから私達が大人になった時、今よりもパソコンを扱うことが大事となってくると思います。また、リモート授業やチームスなどを使ってみんなで情報や考えを共有できて、授業が分かりやすいなどの便利なこともあります。他にも、パソコンを使って授業をするとノートなどの紙類を使わなくていいから、環境にもいいです。ですので私たちは今以上に ict 教育の推進をすることを提案します！

## 2. 提案

### ○提案(1)

家でリモート授業をしたりするときに、家に Wi-Fi がなかったらできません。だから、リモート授業をするときに Wi-Fi を無料貸出してほしいです。Wi-Fi がないとリモート授業ができません。今も家に Wi-Fi がいない家庭があります。だから、Wi-Fi を無料貸出してほしいです。

今は一定の条件の下でモバイルルータを貸出できます。でも、各家庭で通信契約を行わないといけません。児童生徒本人が感染症や学校閉鎖、学年閉鎖、学級閉鎖などで登校できない場合は通信契約付のモバイルルータが貸出しされます。しかし、私たちは学級閉鎖などではないので、リモート授業などの時に無料貸出をしてほしいと思います！

### ○提案(2)

2つ目の提案は、「パソコン授業を増やしてほしい！」と言う事です。具体的に、授業の中に調べ学習を増やしたり、カフトを取り込んだり週2回くらい家からリモート授業があってもいいと思います。カフトを授業ですることで、楽しみながら学習内容が身に付きます！リモート授業をすることで、家でするから家族との時間も増えるし、家でしたほうがしやすい、という人もいます。

そのほかに、タイピングなどパソコンでできる様々なことがあります。パソコン授業を増やすことで、最初の提案のきっかけでも言ったようにパソコン問題に困らなったり、分かりやすくなったりできます。何より、パソコンで授業をするとみんなが進んで授業に取り組んでくれます。だから私たちは「パソコン授業を増やしてほしい！」と言う事を提案します！

## 3. まとめ

このように、ict 学習の推進をしていくと、よい面がたくさんあります。そのような ict 学習推進のための環境を整えたり、学校で積極的に使ったりすることが大事だと思います。便利で楽しいと、使うことが自然と増えてきます。そうしていくと、私達が将来大人になったとき、パソコン問題に困りません。ですので、ICT 学習の推進を増やしたほうがいいと思います！

# 誰もが安全に渡れる横断歩道を

6年2組 有松、宮崎、森田、森松

## 1. 提案のきっかけ

### (1) 私たちの体験と、調べて分かったこと

私たちの住む富野の町で、白杖をもって歩いている人を何度か見た。しかし、視覚障害者の人が安全に過ごせる町になっていない部分もまだ多くある。例えば、音の鳴らない信号機や、点字ブロックのない横断歩道などである。また、インターネットで調べてみると、このような横断歩道では、車の音などを頼りにしているとのことであったが、人通りや車通りの少ない横断歩道では、これらを頼りにできない。最近では走行時も静かな車が増えてきており、これも車通りを判断できない原因になっている。さらに、音の鳴らない信号機では、横断歩道の白い線から出て渡ってしまったり、信号機が青になったことが分からなかったりするなど、とても危険である。現在、富野校区には車通りの多い数ヶ所のみ音の鳴る音響式信号機が設置されている。車通りの少ないところこそ、車の音で横断歩道か判別できない。

### (2) 解決したい課題

音が鳴る音響式信号機や点字ブロックがないと、横断歩道の幅から出てしまったり、信号が変わったことが分かりにくかったりする。視覚障害者が一人でも安全に外出できるように、この方法を提案したい。

## 2. 提案

### 誰もが安全に渡れる横断歩道にする

(1) 音響式信号機のある横断歩道を増やし、視覚障害者が真っ直ぐ安全に渡れるようにする。

(2) すべての横断歩道に点字ブロックを設置し、視覚障害者にも横断歩道があることを知らせるようにする。

このように、どこの横断歩道にも音響式信号機や点字ブロックを設置することで、安全に渡ることができると考える。

## 3. まとめ

わたしたちの住む富野の校区には、さまざまな人が住んでいる。その誰もが安全に過ごせるように、まずは音の鳴る信号機や点字ブロックの設置を提案したい。

# ごみステーションの工夫できれいな町に

6年2組 富久、松本、的場

## 1. 提案のきっかけ

### (1) 私たちの体験と、調べて分かったこと

ごみ出しの日の朝、ごみステーションがカラスによって荒らされているところを見たことはないだろうか。私たちのグループでは、みんなが登校するときなどにカラスがごみステーションにあるごみ袋を荒らしているところを見たことがあった。また、北九州市のホームページでも「例年春先から初夏にかけてカラスによるごみステーションの散乱被害多く起こっています。」と書かれてあった。このことから、カラスによってごみステーションが散らかるということは、富野校区以外の北九州市全体の課題としてあるということである。生ごみなどが道路に散らばることは、地域の人々にとって好ましいことではない。また、ごみ収集をする人も大変である。

### (2) 解決したい課題

現在の状況のままでは、ごみステーションがカラスによって荒らされてしまうので、ごみステーションを工夫する必要がある。この課題を解決する方法を提案したい。

## 2. 提案

### ごみステーションの工夫

(1) ごみ袋をネットで覆うものではなく、金属製のごみステーションにする。また、

現在のように補助金を出して各自治体に任せるのではなく、市が負担し設置する。

(2) カラスが寄って来ないように、カラスに見せかけたものや苦手なものを設置する。

このように、カラスがごみを荒らさないようにごみステーションを工夫すると、町がきれいになり、気持ちよく過ごせると思う。また、ごみ収集の人たちもごみを片付けやすくなる。

## 3. まとめ

ごみ出しの日にきちんと出すことや、ネットから出ないようにしてごみ出しをするなど、わたしたちがごみ出しのルールを守ることで対策できることもあるだろう。しかし、ごみの量が多い日はネットからはみ出てしまったり、すべて覆っていてもネットの隙間からくちばしを入れて荒らしたりするなど、ルールを守るだけで対策できないことも多い。現在、北九州市では「ネット」のみ無料で使用できるようになっている。今後はカラスが荒らすことのできない金属製のごみステーションを市内に無償で設置したりカラスが来ないための対策を行い、きれいな町にしてほしい。



# みんなが気持ちよく気軽に使える多目的トイレ

6年2組 尾形、古賀、山口、山崎

## 1. 提案のきっかけ

### (1) 私たちの体験と、調べて分かったこと

近くの公園で遊んでいてトイレに行きたいと思っても、トイレがなくて困ることがある。私たちのグループでは、みんながこの経験をしていた。また、校区内でトイレのある数少ない公園でさえ、清潔とは言えず、使用しにくい。さらに、多目的トイレではないので、車イスの人などが使用できないのである。

### (2) 解決したい課題

小さい子どもが公園で遊ぶとトイレに行きたくなる。また、障害者の方がトイレに行きたくても多目的トイレがなかったり狭かったりするとトイレに行きにくくなる。この課題を解決する方法を提案したい。

## 2. 提案

### 誰でも使えるトイレを公園に

色んな人が富野の町には住んでいる。赤ちゃんづれの人、車イスの人などである。そんな人たちも含め、誰もが困ることなく、トイレに行きたいときに行ける環境を作ること、私たちは提案する。

(1) 子どもや障がい者などの方でも気軽に行けるように多目的トイレを設置する。

(2) トイレが汚いと気持ちよく利用できないので、きれいなトイレを設置したり維持できたりするように整備する。

このように、だれでも使えるトイレがあると、外出時でも安心して利用することができる。みんなが利用しやすい多目的トイレが公園などにできれば、快適に過ごすことができると考える。

## 3. まとめ

大きな商業施設には赤ちゃんオムツ交換台や車椅子用トイレなどがある。しかし、富野の町には、

ほとんどこうしたトイレはなくとても困っている人が多くいる。外出時にも、誰もが安心して行けるトイレを作ってほしい。

# 私たちの暮らしと公共施設

6年2組 奥平、片野、杉野、森本

## 1. 提案のきっかけ

### (1) 私たちの体験と、調べて分かったこと

この前の社会の学習で、最近、北九州市では高齢化が進んでいることを学んだ。また、クラスの友達に聞くと半数の人が動物を飼っていた。しかし、富野の町には、子ども向けの遊具のある公園があっても、高齢者向けの運動施設や犬などの動物を放して散歩できる公園や施設がないのである。

### (2) 解決したい課題

誰もが楽しめる施設や運動できる施設がないと、みんなが外に出なくなり運動不足などになってしまうことがある。最近、高齢者が増えてきて、動物を飼う人も多くなっている。この課題を解決する方法を提案したい。

## 2. 提案

### 誰もが楽しく快適に過ごせる施設を

(1) 高齢者が楽しめる施設を作りたい。高齢者の体を元気に楽しく動かせたりできる施設を増やす。

(2) 動物が元気になるように自由に遊べる場所を作りたい。動物のために運動不足にならないように楽しい場所を増やす。

このように、高齢者が運動できる施設を作ることによって、高齢者の体が健康になり、元気に過ごせるようになるのだ。そして、動物が無料で自由に遊べる場所を様々な場所に設置することによって、動物が家ではなく、広いところで走り回ったりでき、様々な場所に設置することで動物がいろんな違うところで遊べたら動物がもっと楽しめると思う。

## 3. まとめ

子どもが楽しむ公園だけでなく、高齢者など、さまざまな年齢の人が楽しんだり健康のために運動できたりする施設をつくれば、笑顔が増える町になると思う。また、人間だけでなく、動物も楽しむことができる施設が増えれば、みんなが心から楽しいと思うだろう。

# 学校にバリアフリーを・・・

6年2組 岡崎、中園、村川

## 1. 提案のきっかけ

### (1) 私たちの体験と、調べて分かったこと

私たちのグループでは、学校の階段を松葉杖や車いすの人が大変そうに上るところを私たちのグループでは全員が見たことがあった。さらに、松葉杖や車いすの人達のほとんどが、一人で上れず、先生や友達についてもらっていたり、後ろの人達が待っていて迷惑をかけてしまっていたりしていた。骨折等で怪我をして誰でも、松葉杖になることは起こりうる。また、学習参観などで車いすの保護者の人などが学校へ来ることもある。しかし、学校には階段しかないので、とても困っている。

### (2) 解決したい課題

障害や怪我などで階段の行き来で困っていたり、苦しんでいる人達がいたりするので、この課題を解決する方法を提案したい。

## 2. 提案

### 誰もが安心して過ごせるバリアフリーな学校に

障害や怪我で松葉杖や車いすを使っている人達も安心して学校で過ごせるように、この課題を解決する方法を提案したい。

(1) 松葉杖や車いすの人が学校へ来ても安全に、そして快適に上の階へ行けるようにエレベーターを設置する。

(2) 車いす用階段昇降機を設置する。

このように、エレベーターや昇降機を設置することで上り下りを快適に、そして安全に行うことができるのである。

## 3. まとめ

車いすや松葉杖の人達は階段だととても不便である。学校にはたくさんの子どもが毎日通っている。また、地域の人や保護者の人も来校することは少なくない。誰もが、安全にそして快適に過ごせるようにバリアフリーな学校にしてほしい。

# 案内板を増やして道に迷いにくく

6年2組 富永、久森、宮脇

## 1. 提案のきっかけ

### (1) 私たちの体験と、調べて分かったこと

案内板が近くになくて道がわからなくなったことはないだろうか。僕たちのグループでは、道がわからなくなっていた経験をみんながしていた。また、地域の人に道を聞かれたこともある。案内板がないために、困っていたのである。スマートフォンを持っている人は、地図アプリなどを使用すればあまり道に迷わないが、高齢者などはアプリを持っていないことも多い。また、クラスの友達に聞いたところ、案内板があっても、古くて字や色が薄く、見えにくいという意見もあった。

### (2) 解決したい課題

近くに案内板がなかったり、案内板はあっても色が薄くて見えなかったりすると誰かに道を聞かれたときにわざわざスマートフォンを開いて調べないといけなくなる。特に高齢化が進んでおり、スマートフォンを利用できない場合も多いため、この課題を解決する方法を提案したい。

## 2. 提案

### 分かりやすい町に

初めて富野の町に来た人も、どこに何があるか分かるようにする町づくりを、私たちは提案する。

(1) すでにある案内板には色が薄くて見えにくいので色を濃くして見やすくする。

(2) 案内板がないところに案内板を増やして道に迷いにくくする。

このように案内板を増やしたり、色を濃くしたりすることで、道を聞く必要もなくなり、一人一人時間に余裕を持って行動できる。

## 3. まとめ

案内板は便利で、見るとすぐに場所が分かる。しかし、案内板の数が少なかったり色が薄かったりすると、道を聞かれても答えにくい。また、不審者も多い中、道を聞かれても知らない人から声をかけられると警戒してしまう。そこで新しい案内板や色を付け足すことで案内板を見やすくしてほしい。そうすることで、道に迷う必要もなくなり、人に声をかけたり、かけられたりすることもなく、安全にそして快適に行動することができると考える。